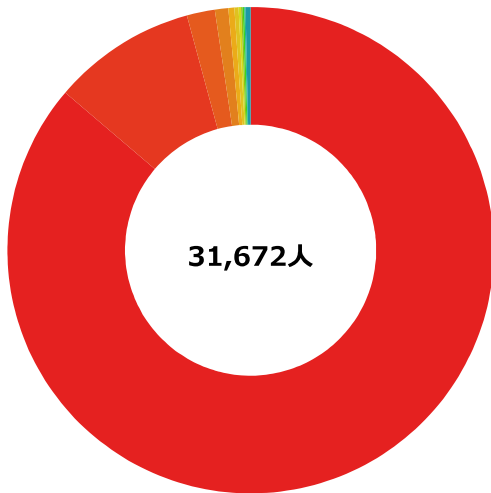


昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 北海道音更町

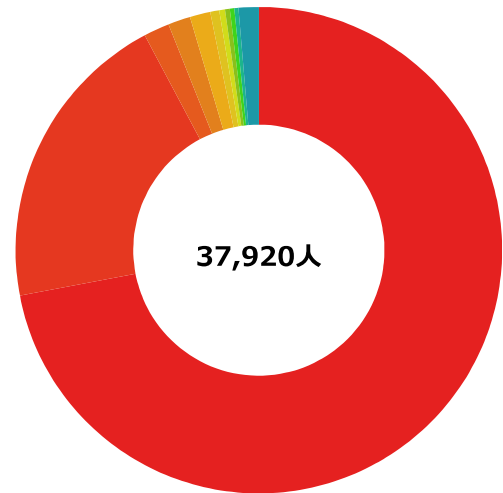
昼間人口 : 31,672人
夜間人口 : 37,920人
(昼夜間人口比率 : 83.52%)

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



- 1位 北海道音更町 27,304人 (86.21%)
- 2位 北海道帯広市 3,032人 (9.57%)
- 3位 北海道幕別町 590人 (1.86%)
- 4位 北海道芽室町 279人 (0.88%)
- 5位 北海道士幌町 129人 (0.41%)
- 6位 北海道池田町 89人 (0.28%)
- 7位 北海道鹿追町 48人 (0.15%)
- 8位 北海道清水町 39人 (0.12%)
- 9位 北海道札幌市 29人 (0.09%)
- 10位 北海道士幌町 27人 (0.09%)
- その他 106人 (0.34%)

夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 北海道音更町 27,304人 (72.00%)
- 2位 北海道帯広市 7,674人 (20.24%)
- 3位 北海道芽室町 646人 (1.70%)
- 4位 北海道士幌町 561人 (1.48%)
- 5位 北海道幕別町 516人 (1.36%)
- 6位 北海道士幌町 229人 (0.60%)
- 7位 北海道鹿追町 148人 (0.39%)
- 8位 北海道札幌市 117人 (0.31%)
- 9位 北海道清水町 114人 (0.30%)
- 10位 北海道池田町 106人 (0.28%)
- その他 505人 (1.34%)

【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

昼間人口

: この画面においては、就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口をいう。

算出方法は「地域に常住する人口」-「地域から通勤者又は通学者として流出する人口」+「その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」

テレワーク勤務に関しては、定義上ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が従業地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半数以上の場合は、自宅を従業地とするため、「流出人口」「流入人口」に含まれない。

夜間勤務の者、夜間の学校に通っている者も便宜上昼間就業者・昼間通学者とみなして昼間人口に含めているが、買物客などの非定期的な移動については考慮していない。

夜間人口

: この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率

: この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値に関して、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び幡豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。